

柴桂子さんは、山口県出身、高校卒業後地元の会社に就職しましたが、大学へ行きたいという夢を捨てきれず、29歳の時に上京、大学を働きながら卒業しました。

卒業後は自宅で塾を開いたり、ご主人の経営する造園業を手伝ったりしながら二人の子供を育て上げました。子育てが終わって50歳の時自分がやりたかった女性史の研究を始めたいと京都の大学で勉強しました。2年たったときご主人が倒れ介護生活に。19年後ご主人を看取り、研究の日々に戻りました。そんな生活の中で農業に対する関心も強く、60歳のときから掛川市の無農薬農業の会「花の森」に参加し、東京や京都から月に1度通い畑を作ってきました。



顔写真2

80歳になったとき、これからの人生を考え、農業中心の生活を送りたいと、今年2月に掛川市の民家を買って引っ越してきました。

荒れていた生け垣や庭をほとんど一人で整理して、畑を作り、季節の野菜を作っています。

庭には草1本ない美しい畑が広がっていました。

1日中畑にいても平気というくらい畑仕事が好きなのだそうです。家の周りにあるたくさんの自然の草花も大好きで、大切に慈しんでいます。



DSC 0428



DSC 0552

敷地にあった離れをリフォームして「活き粋ばあばの学舎(学舎は「いえ」と読みます。)」として、地域の皆さんの集いの場として提供しています。

遠くからきたお客さんのために2階は泊まれるようになっています。



家の前の看板も近所の方の手作りで、温かい出来上がりになっています。

[kannbann](#)

[hanare2](#)



地域の行事にも積極的に参加して「こんな田舎にどうして？」と思っていた近所の人達ともすっかり打ち解けています。

[DSC 0425](#)

月に一度柴さん専門の「江戸の女性史」講座を自ら開き、浜松や磐田からも出席者がいます。



[DSC 0342](#)

大学入学は女だからと父親に反対され10年遅れての入学、女性史研究は介護のかたわらにされた柴さん。女性なら誰でもつきあたる大きな壁を乗り越えてきたという印象を受けますが、「壁だなんて思ったことなかったわ〜。」とさらっとした答えが返ってきました。

壁だとか苦労だとか思わず、自然体で行動できる柴さんだからこそ、80歳からの新しい人生も楽しめるのだと思います。

小笠・榛南地区 生きがい特派員 荒木弘子